

言葉にする前に

久留米信愛高等学校 2年 武藤 恵麻

皆さんに忘れられない言葉はありますか。どんなに時間が経って、頭にこびりついて離れないような、そんな言葉はありますか。

私には笑うことが辛い時期がありました。同級生に「笑った顔が怖い」と揶揄われたからです。冗談を言い合うような関係で、きっと何気なく言った類いのものだろうと思います。私は、自分に対するコンプレックスが強くあり、自分の顔の造形の細部に至るまで誰かと取り替えてしまいたいのです。「笑った顔が怖い」と言われた時、自分が心のどこかで思っていたもやもやとした感情を他者に勝手に言語化され、抑えていたものが溢れるような感情がしました。自分の顔がいかに変で気持ち悪いかなんて私が一番理解している。頑張って前を向こうとしていた気持ちを土足で踏み躪られ、笑うことが怖いと思うようになりました。

「また、怖いと言われたらどうしよう。」

私にとって笑顔は感情表現の一種で、嬉しいとか楽しいとか、そう言った明るい気持ちを表すものであったはずなのに、笑うことに対して不安や恐怖が募り、どこか息が詰まるような気がしました。多分言った子は覚えてすらいらないと思います。ですが、それは私にとって「からかい」や「冗談」では、済ませられないほど重い言葉です。変えようの無い外見のことを批判され、自分が抱えているコンプレックスを刺激され、誰が気にしないのでしょうか。いじられキャラなんて存在するのでしょうか。周囲がキャラクター像を押し付けて、キャラとして確立させているだけではないのでしょうか。

日本の社会問題として、「自殺」が挙げられます。漢字の通り、自分を殺すことです。日本は自殺大国と呼ばれ、世界規模で見ても自殺者数がトップクラスです。私たち高校生の自殺者数は令和五年度、三百四十七人。前年の三百五十四人から減少しているものの、数値として大きいです。家庭問題や健康問題、学校でのストレスなど、理由は様々ですが、突き詰めるとどれも人間関係と強く結びついているのではないのでしょうか。私たちは言葉によって人間関係を築いています。SNSが普及した今、誹謗中傷などの心無い言葉がネットの波を行き交うようになりました。あなたの言葉は誰かを傷つけていませんか。

時に『いじり』は『いじめ』へと変わり、誰かに深い心の傷を負わせてしまいます。中にはいじりが原因で命を絶ってしまう人もいます。言葉というものはそれほどまでに人を追い詰めてしまうものです。もちろん、他人が聞いたら驚くような言葉を言われても気にしない人はいると思います。ですが、「気にする」と「気にしない」の境界線は人それぞれで、他者には計り知れないものです。だからこそ、言葉選びに対して慎重にならねばなりません。私たちは小さい頃から、「自分がされて嫌なことはしない」と言われて育ってきました。ですが、本当は「自分が」されて嫌なことをしないではなく、「相手が」されて嫌なことをしないということに気をつけるべきです。SNS、LINEなど言葉が可視化されるコミュニティが広がる現代において、軸を相手に置くということが今、何よりも必要ではないのでしょうか。

私自身も言葉に対して慎重で在ろうと思います。誰に向けた言葉で、その相手にとって不快な言葉ではないかどうか。言葉にする前に一度、深く考えてみませんか。